

アップル(AAPL)

【セクター】 電子機器

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

スマートフォンの「iPhone」、タブレットの「iPad」、パソコンの「Mac」、腕時計の「Apple Watch」、音楽・映画などがダウンロードできる「iTunes」、音楽ストリーミングの「Apple Music」、決済サービスの「Apple Pay」などの機器やサービスを提供する会社です。地域別の売上構成比は、米州45%、アジア太平洋24%（中華圏17%、その他7%）、欧州23%、日本8%です（19年9月期）。上場企業の中では、売上高、利益ともに世界最大級です。

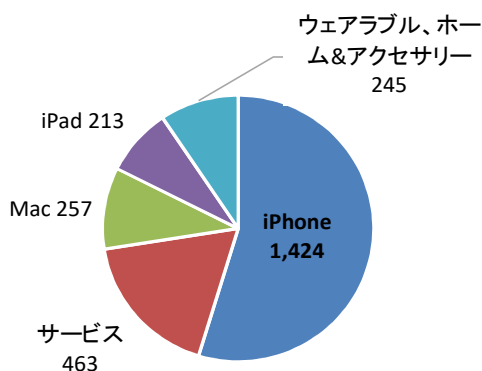
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年9月期	265,595	59,329	11.87	2.72	22.5	49.2	29.3
19年9月期	260,174	55,280	11.90	3.00	20.4	55.9	26.7
20年9月期予想	273,356	55,988	12.93	3.20	16.8	73.6	—

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

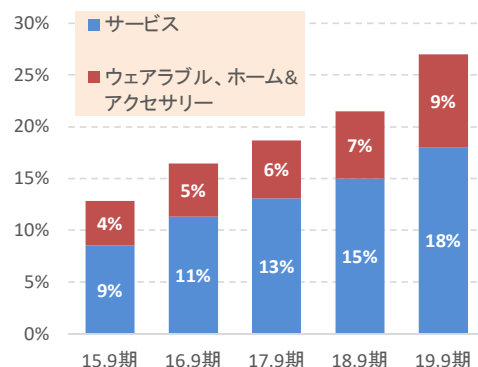
【主要指標】

図表1 売上構成（19年9月期、億ドル）



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

図表2 サービスとその他製品の売上構成比



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

売上の約6割を占める主力製品の「iPhone」は同社独自の基本ソフト「iOS」によるスマホで、18年の世界シェア（出荷台数）はサムスン電子の20.8%に次ぐ14.9%を占めています。ただ、世界のスマホ市場は先進国を中心に飽和状態で、また、単価の引き上げによる売上の押し上げにも限界が見えてきたことから、サービスやその他製品を伸ばしてiPhoneへの依存度を落とそうとしています。サービスでは、動画配信サービス「Apple TV+」、ゲームの「Apple Arcade」などを投入しています。

【見通し・注目点】

19年7-9月期はiPhoneの減収が続いたものの、前年同期比54%増のウェアラブル、ホーム&アクセサリ、同18%増のサービスなどがカバーして増収を確保。10-12月期の売上ガイダンスは855～895億ドル（前年同期比1%～6%増相当）として、中央値は市場予想の867億ドルを上回りました。米中貿易摩擦に関して現時点では多くの製品が関税の引き上げを免れています。米中通商協議が部分合意に達し、スマホ、パソコンなどを含む12/15（日）の対中関税発動が回避されれば大きなメリットになると見込まれます。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 19/11/6）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。